

## シリーズ「放課後子ども教室推進事業」 初中教育ニュース（初等中等教育局メールマガジン掲載）

### 【第36回】

「生き生きと、群れて遊ぶ子どもたちの姿を見ることができる居場所」  
そこが『大里子ども教室』

福島県岩瀬郡天栄村立大里小学校長 山本 恭士

『大里子ども教室』は、福島県南部の純農村地帯に位置する天栄村立大里小学校の余裕教室を活用し、平成19年に開設され、月曜日から金曜日まで毎日実施しています。参加希望した子どもたちが、保護者が迎えに来るまで、本人の自由な意志で過ごす「安心・安全」な居場所です。全校児童数65名中54名、80%を超える子どもたちが参加しています。大好きな友だちと自由に遊び、自由に過ごせる子ども教室だからこその高い参加率です。

『大里子ども教室』の活動は、出席確認後に宿題を行い、後は自由意志でとことん遊ぶ、という内容です。室内では、折り紙、コマ、けん玉等、広い校庭では、遊具を使った遊び、サッカー、ドッチビー、鬼ごっこ、缶蹴り、一輪車、竹馬等で思い切り遊びます。雨の日は、体育館と図書室を利用して活動しています。活動指導員の方々が見守る中、保護者が迎えにくる5時半過ぎまで、真っ暗になっても遊んでいます。学校の休み時間以上に学年を超えた人間関係での遊びも多くなります。

『大里子ども教室』のもう一つの特徴は、保護者に直接子どもを引き渡すのが原則なので、その日の活動の様子で話が弾み、指導員と保護者の触れ合いが深まっているということです。先生方と指導員の方々の関係も良好で、先生と保護者が子ども教室を通して話し合うこともできます。

学校と放課後子ども教室の話し合いも定期的に行っています。あいさつや言葉遣いについての指導のあり方について共通理解を図ったり、フライングディスクの講習会や村の講演会について連携して実施することもできました。

「まだ帰りたくない」と迎えにきたお家の人を困らせながら、群れて遊ぶことを楽しむ『大里子ども教室』の活動が、素直でのびのびとした「大里っ子」に結びついていることに感謝しています。

（初中教育ニュース（初等中等教育局メールマガジン）第133号に掲載）